

事業名 さいたま新都心歩行者系 サイン整備事業

各事業者の協調により、一貫したデザインシステムによるバリアフリー関連施設としてのサイン整備事業

受賞機関 埼玉県住宅都市部新都心企画課
事業実施期間 平成9年9月～平成12年3月
事業費 306百万円

事業等の特徴

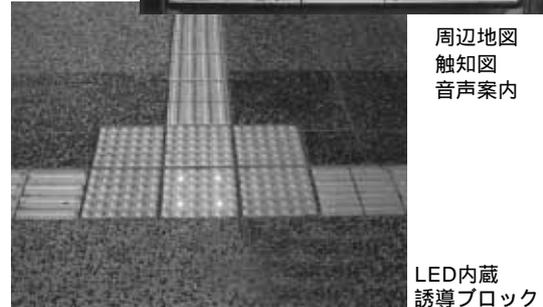
さいたま新都心の事業地区においては、整備に参画している多数の事業者間で「さいたま新都心地区まちのサイン整備における共同設計事業推進協定」を締結している。協定に基づき共同で設計者の選定や設計内容に関する協議を行うことで、街全体を同じ仕様により一体的に整備することができ、初めての来街者にも分かりやすいものとなっており、機能とデザインの統一性において優れているという利用者の声が寄せられている。また、学識経験者及び行政による「バリアフリー研究会」や県内障害者団体による「バリアフリー研究懇談会」を組織し、模型等を使用した意見交換の実施、誘導ブロックなどの視認実験等を行うとともに、各建設・設計事業者へのヒアリング調査を実施し、それらを施設整備に反映させるなど利用者の視点に立った整備が行われている。

事業の概要と利用者等の評価

1. 事業に至る経緯

まちのサインは初めてまちを訪れるどのような人に対しても分りやすく、ユニバーサルデザイン的な考えを取り入れ、親切で利用しやすいかたちで整備されるのが望ましく、「さいたま新都心バリアフリー都市宣言」に基づくハード事業の一つとして歩行者系サインを整備してきた。

整備にあたっては、国土交通省（当時：建設省）、埼玉県、都市基盤整備公団（当時：住宅・都市整備公団）、総務省（当時：郵政省）及び簡易保険福祉事業団の5事業者により「さいたま新都心地区まちのサイン整備における共同設計事業推進協定」を締結し、共同で設計者の選定、設計内容に関する協議を行い、実施した。



周辺地区
触知図
音声案内

LED内蔵
誘導ブロック

2. 事業の概要

分かりやすい表示により、障害者を含めたすべての人々がスムーズに目的地へと到達できるようにいろいろな工夫を凝らしている。街区の分岐点に立つ拠点サインは、視覚障害者に対して、街の構造を案内する触知図、誘導ブロックを補完するための音声誘導装置、聴覚障害者に対して一般ニュースや緊急情報を文字で提供できるLED可変文字情報システムなどを一体的に組み込んでいる。

平成12年5月5日に街びらきをした「さいたま新都心」をいかに成長、成熟した街にするかは、今後とも、まちのサイン調査点検の実施、障害者団体との意見交換会の実施、まちづくり協議会での調整・要望等いくつかの仕組みを模索しつつ、民と官との協力のうえで改善・拡充を図ることが重要である。

審査委員会委員の意見等

- ・機関横断的な取り組みが評価できる。区域外部への発展はどう考えるのか。
- ・新しいまちづくりがゼロから行える優位性を生かし、LED可変、文字情報システムなど他ではあまり見られない実験的試みがなされている。
- ・健常者・外国人・肢体不自由者・聴覚障害者・視覚障害者など、あらゆる来訪者に対して適切に情報提供することに配慮が行き届いていることに対して評価できる。